

# 県連ニュース

2021年12月 NO-533号



『伯耆大山 剣ヶ峰方面』

## 滋賀県勤労者山岳連盟

## 2021年12月号 目次

リレーエッセイ	2
案内	
交流山行 三雲城址ハイキング	4
スキーネット滋賀 会員募集	5
雪を楽しもう	6
県連事務局からのお願い・編集部からのお詫び	7
報告	
代表者会議・第8回理事会	8
登山祭典	9
山友会 釣瓶岳	
岳友会 銚子ケ口	
比良雪稜会 赤坂山・三国山	
ちごゆり 十二坊と善水寺	
彷徨クラブ 清滝山	
第22回飲み水調査・第7回放射線測定	14
CSS しし岩 岩トレ 報告	18
ぐうたら会長のつぶやき	20
12— '22/2月 行事予定表	21

表紙の写真：『伯耆大山 剣ヶ峰方面』

撮影者：川嶋文男氏 比良雪稜会

## ソロ山行に思いを巡らせて

彷徨倶楽部 信森 徹

テント泊を始めて間もない頃、初めて泊まった金糞峠の素晴らしい幕営地にもう一度行ってみたいくなり、一人でテントを担いで出かけたことがあります。

その日の天気予報は悪くとも曇りで、そう荒れそうな状況でもなかったように記憶していますが、登っていくうちに雨がパラつき出し、ヤケオ山から釈迦岳に向かう頃にはほとんど暴風雨になりました。登山道脇の木がブンブン唸りを上げてしなり、晩秋の冷たい雨はレインウェアの上から容赦なく体を叩き付けます。

どうしようか自分なりに考えた末、北比良峠に抜けることにしたのですが、北比良峠まで来てみると嘘のように風は治まり、ほんの小雨程度の雨が降っているだけでした。緊張も解けないまま金糞峠に着いてテントを立て、シュラフに潜り込んだ時の安堵感と幸福感は、今もよく憶えています。

この時、山の天気は尾根一つ違えばこれだけの差が出るほどシビアなこと、山で雨に打たれることの危険性など、色々と学ぶことがありましたが、強く感じたのは、山では計画から下山まで、全て自分で責任を持って対応しなければならないということでした。その後も僕の山行は道の無い山への「単独行」が多いのですが、山は広い意味でソロが基本なのではないか、という思いをいつも持ち続けています。

一人で山に入ると、自分と自然環境とを隔てていた文化的・社会的な囲いは消え去り、限りなく希薄になった自意識のほころびを通して、人間が意味を与える以前の剥き出しの自然に直面させられます。

そこでは「挑戦」や「立ち向かう」という意識は後ろに遠のき、ただ山が語りかける声を聞き取ろうと静かに耳を傾けることができるだけです。

そのことが、山に登る経験の振幅を、広さ方向にも深さ方向にも大きくしてくれる気がしています。

そしてその分だけ、共に登るパートナーとその場にいなければ得られない体験を分かち合えることの、かけがえのなさを実感できるようにも思うのです。

ある人から聞いた言葉ですが、「山は人なり」、ソロ山行の経験を通して初めて、この言葉がより真実に近づくように思えます。

単独行は危険だとよく言われます。たしかに、もし事故などがあった時に助かる確率が下がるという点では全くその通りなのですが、それは単独行自体が危険だということとは少し意味が違う気がします。

人と登れば、自分のミスを他の人の判断が補ってくれるかもしれません。

でも、もしそれだけ自分の注意力が散漫になっているとすればどうでしょう？

あるいは、他の人の判断に引きずられたり、心理的プレッシャーから判断を躊躇ってしまったりすることがあるとしたら？

またもし遭難等のアクシデントが起こった時、残りのメンバーが適切に行動できなければ却ってリスクを増やすことにならないでしょうか？

結局のところ、単独であってもパーティーであっても、それぞれが自分でできること・できないことを知り、自分自身で自分の面倒を見られるようにすること、山行を自己完結できるということが、前提になければならないということなのではないでしょうか？.....

以前は登山装備が重く、パーティー登山には分担して負担を軽くするという意味もありましたが、現代の装備では分担しても一人で担いでも誤差程度の違いにしかならないことも多くなりました。

また、このところのコロナ禍の影響で、ソロテント山行なども違和感が無くなってきています。そんな意味でも、ソロへのハードルは低くなってきているのではないかと思います。もし、まだ一人で山に登ったことが無いという方は、この機会に一度「自己完結するソロ山行」をやってみては如何でしょうか？

そして、山岳会という存在が、そうした山行をバックアップできる場であってくれれば嬉しいですね.....

<交流山行案内>

## 三雲城址ハイキング

三雲城址は室町時代後期に三雲典膳が築城した東西 300m、南北 200mの山城です。穴太積の石垣が残っており、この山のシンボルともいえるべき巨大な八丈岩があります。そして猿飛佐助のふるさとと言われていています。三雲城址頂上は 330.9mです。

麓には南北朝時代、藤原藤房（ふじわらふじふさ）が出家して開山した妙感寺があります。藤房が後醍醐（ごだいご）天皇の笠置山（かさぎやま）脱出に従い、笠置山で戦死した人々の霊を慰めたところ です。

実施日 令和 4 年 1 月 23 日（日） 雨天中止

集合場所 JR三雲駅南口

集合時間 9:30

コース JR三雲駅南口 ～ 立志神社経由 ～ 妙感寺 ～ 山道  
～ 三雲城址・八丈岩 ～ 林道 ～ 三雲城址観光案内所（昼食）  
～ 弘法杉 ～ JR三雲駅（14:20 着予定）

装備 山行標準装備

申込〆切 1 月 10 日（月） ㊦11 月号案内より〆切が早くなっています

ちごゆり山歩会 柴田英男 TEL 0771-23-0845

メール snkf63425@maia.eonet.ne.jp





# ス キ ー ネ ッ ト 滋 賀 会 員 募 集

山スキーは楽しそう、やってみたいが、一人では「ちょっと不安」と思っている人、スキーネット自身のシュプールを描きませんか。初心者歓迎です。経験豊かな会員がゲレンデスキーから山スキーが楽しめるようノウハウを親切ていねいに伝えます。

滋賀労山の会員で山スキーに興味のある方、連絡をお待ちしています。

山スキー教室（弱層テスト・ビーコン操作等雪崩事故を防ぐ講習会講師資格者が在籍）



山スキーに必要なテクニックを学ぶ

深雪を滑る



シール登行

**連絡先** 下記のいずれかにご連絡下さい。

谷内資康（彷徨倶楽部） 携帯：090-2280-9979

Eメール：[tomo-hira3rose@rouge.plala.or.jp](mailto:tomo-hira3rose@rouge.plala.or.jp)

村田啓二（湖南岳友会） 携帯：090-3283-4843

Eメール：[k-hiyake@hera.eonet.ne.jp](mailto:k-hiyake@hera.eonet.ne.jp)

田中政行（滋賀山友会） 携帯：090-2192-0375

Eメール：[koolina0827@yahoo.co.jp](mailto:koolina0827@yahoo.co.jp)



# 雪山を楽しもう！

--- 雪山基礎講座 2022（第2報） ---

この講座は、雪山技術を基礎から学びたい、あるいは少し経験はあるけれどもっといろいろな雪山に登ってみたい、そんなひとを対象にしています。

雪山は美しい。雪山に身を置く素晴らしさは言葉では言い尽くせません。でも、雪山には危険がいっぱい。実戦的な技術と知識を学んで安全に雪山を楽しみましょう。この講座が受講生に求めるものは「雪山への真摯な憧れ」です。素晴らしい白銀の世界へ踏み出しましょう。「わくわくする山」目指して、いざ。

## ■日 程：2021年12月～2022年5月

- 山行を通じて、雪山登山に必要な知識と基礎的な技術を実践的に学びます。連続して受講して頂くのが理想的ですが、毎回独立した内容なので都合の良い日程のみの受講も歓迎します。
- 12月7日（火）20:00-21:00のONLINEでのオリエンテーションで、講座の概要説明、計画書必要事項の確認、日程調整および装備確認を行います。

## ■山 域：ハケ岳権現岳、中央アルプス木曾駒ヶ岳山、北アルプス鹿島槍ヶ岳、南アルプス仙丈ヶ岳などを予定しています。山域は受講生の希望を考慮して最終決定します。

## ■講 師：秋田誠（彷徨倶楽部、日体協登山上級指導員）、クライミング研究会々員および外部講師

## ■主な講習内容：

1. 雪上歩行（キックステップ、アイゼン、ワカン、スノーシュー）
2. ピッケルワーク（ピオレトラクション、耐風姿勢、滑落停止）
3. 雪上ロープワーク（固定ロープ通過、スタンディング・アックスビレー、懸垂下降）
4. ホワイトアウトナビゲーション

## ■募集人数：8名程度

## ■受講料：各回2,000円、申込金不要。山行の交通費、食費など別途必要です。

## ■申込み（問合せ）と申込み期限：

090-3727-3721（秋田、19:00-21:00）

または メール [dekameno@gmail.com](mailto:dekameno@gmail.com) ショートメールも可。

**期限 12月3日（金）**



雪洞訓練、奥美濃・大日ヶ岳



北アルプス・爺ヶ岳東尾根

## 県連事務局からのお願い

### ★事故一報の提出について

県連では、1年間(2021.1~2021.12)の事故をまとめて総会資料を作成します。必ず県連事務局宮内まで事故一報の提出をお願いします。全国連盟に保険金申請する場合、事故一報の報告がないと把握できません。

### ★他会山行へ参加の場合も計画書提出について

交流山行・清掃登山・登山祭典など他会の山行に参加される場合、保険の関係で、所属会への計画書提出が必要です。今後は、所属会の山行だけでなく、会を超えた仲間での横繋がりも増えてきます。計画書の提出を忘れないでください。

## お詫び

9月号に掲載しました「CSS 比良・白滝谷沢登り 山行報告」編集者の不注意から11月号に再度掲載してしまいました。お詫びいたしますとともに、今後さらに編集に注意を徹底いたします。





◇出席者

代表者→豊田(滋賀山友会)、西村(雪稜会)、重井(岳友会)、谷内(彷徨)  
理事→友永、中島、池田、古川、田中、村田、宮内

◇欠席者

代表者→柴田(ちごゆり)、太田(シャクナゲ)  
理事→平山、山元、川嶋、川口(共に連絡あり)

宮内理事長の司会進行の下、下記の議題につき協議・検討した。

1. 今年度の終了行事について
2. 次年度活動について

清掃登山・交流山行・登山祭典等について、友永会長より今年度の取組について意見があれば出してもらい、次年度取り組んで欲しいことを述べて欲しい旨の挨拶があり出席者から下記の意見が出された。

- ・交流山行は良かったので続けて来年度もやってほしい。横の会員同士のつながりも できる。
- ・同じ意見である。期間は定めないで気楽にやるようにしてほしい。各会最低年一回 はやってほしい。
- ・交流山行で他の会からの参加者には必ず事前に計画書を送ること。他会の参加者は、所属会へ提出する必要がある。保険の関係もある。
- ・一般募集については各会のメ切日でよい。保険については、県連で一括申請するので、実施日の3日前を締め切りとする。
- ・コロナも少し落ち着いてきたので、講演会を企画してはどうか。特に山のリスクマネジメントに関するもの、夏山の低体温症の怖さとか。
- ・近場で岩場の登り方、地図の読み方、ビバークのやり方など実技講習を企画してはどうか。CSSとして協力する。労山会員のメリットを感じさせることが必要だ。

最後のまとめとして、宮内理事長より「CSSからの企画、友永会長からハイキングセミナー企画、豊田さんからステップアップ比良の企画等その他にもあれば12月中に次年度の活動案として提出して欲しい。2022年1月には次年度計画案を作成するので反映させたい」ということを言われた。

3. その他、

①県連保管の装備について

県連保管の装備について写真リストと共に処理等検討提案が宮内理事長より出され出席者より、ロープなど経年劣化しているものや使えないものは処分すべきだという意見が出された。まとめとして友永会長より「県連総会の時に装備リストと現物を並べて、捨てる、保存する、他に譲る等の判断をする」旨のことが出された。

②総会当日の午前中の講習会について、内容提案があれば出して欲しいという旨の報告があった。1月には、HPにアップして一般募集したい。

以上

2021年度 第8回理事会

◇出席者及び欠席者は代表者会議に掲載。

◇議題

1. 交流山行について

各会が取り組んだ企画について、日時と場所と参加人数を確認した。

2. 登山祭典(10/24)実施報告 12月号県連ニュースで報告予定。

各会が取り組んだ企画について場所と参加人数を確認した。

3. 各部からの報告

・機関紙部 県連ニュース12月号(11月15日メ切)

・組織部

山友 57/57	岳友 33/33	雪稜 41/41	彷徨 10/10	ちごゆり 16/16	シャクナゲ 5/5
(29+28)	(18+15)	(24+17)	(6+4)	(7+9)	(3+2)

4. 来年2022年3月6日総会までのスケジュールを確認した。

次回理事会(ZOOM併用)は1/20(水)19:00~明日都大津フリースペースにて

## <登山祭典報告> 山友会 「釣瓶岳」

実施日 2021年10月24日 (日) 晴れ

参加者 金原・塩井・浅見・堀井・山森・小間・  
川口・豊田・吉村・沼・森・小林み  
明隅・宮内 会員 14名

コース 近江高島 JR7:23着 コミュニティ  
バス7:27発→黒谷バス停7:46着  
8:00栗木田出合→金山谷出合→  
10:3イクワタ峠→11:20釣瓶岳  
11:50→ナガオ尾根→広谷→13:55  
北比良峠→15:40イン谷→16:00発  
バス→JR比良駅



報告 山友会に入り2年目。入会した頃が新型コロナウイルスの始まりで感染防止による自粛生活を余儀なくされ、年1回くらいの参加でした。今回、登山の祭典「高島方面の釣瓶岳」に参加することができました。久しぶりの参加にワクワク・ドキドキしながら合流しました。山友会の方々には温かく歓迎していただき感謝しております。

遠い地から参加させていただきました。スタート地点の栗木田出合でストレッチ体操をし、歩きながらいろいろな方々と会話をして交流できて良かったです。

昼食後のナガオ尾根から広谷までの下山コースは難しく、木の赤いテープ、赤スプレーの目印や地図とコンパスの利用で先導していただきありがとうございました。

一人で登山をしているのとは違い、安心して歩いたり景色を見たりして自然を満喫し、日頃の多忙さを忘れ癒されました。晴天の中で景色も良く、各地点で説明もしていただき、地図読みもその都度ご指導いただき楽しむことができました。また、団体で歩く時のルールを学ぶことができました。予定のバス停留所「比良イン谷口」のバス停に着いた時、「ここから比良駅まで歩きませんか。」と若い女性に声をかけられ、この辺の地理もわからないまま比良駅まで歩きました。周辺の様子分かって良かったです。

決して素人一人では行けないコースの下見をしていただき安全な登山をすることができました。年令的に若さのある方ばかりで、山友会の行事で若さが保たれていることがよくわかりました。日頃からスマホで毎日歩く歩数を測っている私は、今回の自宅から出発して18.7km、31,838歩でした。



これからも自由の時間をもっと作り行事に参加でき、より一層若さが保てるようにと思いながらの参加でした。ありがとうございました。(登山祭典に参加して・森)

## 「銚子ヶ口」 山行報告

実施日：2021 年 10 月 24 日（日） 天気：晴れのち曇り

参加者：CL 村田 SL 重井 救急家邊 川村（一般） 前田（山友） 田中博（山友）  
河野 渡壁 田中 東郷 藤関 松田 大門

日程：野洲駅 6：10 集合→道の駅「奥永源寺溪流の里」7：25→鈴鹿キャンプ場入口  
7：35⇒風越谷入口 8：10⇒モノレール登山口 9：00⇒東峰 10：20⇒銚子ヶ口  
10：25⇒水舟ノ池 11：15（昼食）⇒銚子ヶ口 13：00⇒東峰 13：05⇒銚子ヶ  
口登山口 15：30⇒道の駅 15：50⇒野洲駅 17：10

心配していた駐車スペースはすいており身支度を整え快晴のもと出発する。舗装された風越谷林道は足・腰にこたえる、やっとの思いでモノレール登山口に到着大休憩し次の急登に備える、あえぎながら登ること 1 時間 20 分快晴の空と素晴らしい展望が待っていた。東峰から

三角点の在る銚子ヶ口を過ぎると道は迷いやすいが急登はなく少し下って水舟ノ池に到着 紅葉はまだ一部だが写して美しい、昼食をとり下山する。



銚子ヶ口



水舟ノ池

### 感想文

紅葉には少し早い鈴鹿でしたが、天候に恵まれ、岳友会さんのフレンドリーな雰囲気の中楽しく山歩きさせていただきました。ありがとうございました。

登り始めの林道はペースが上がりがちですが、「ここは焦らず、ゆっくりと」とリードしていただき、おしゃべりしながら歩けたせいか、長い林道歩きも苦になりませんでした。

稜線からの伊勢湾、鈴鹿の山々、奥深い山にひっそり在る水船の池、いろいろ見どころはありましたが、一番印象に残ったのは「大峠」の景色でした。2週間後に再訪しますが、どんな紅葉を見せてくれるか楽しみです。  
(山友会 田中博子)

トロッコの道を通って銚子が口に向かうルートにひかれて、山友会から参加させていただきました。長い林道からトロッコのレール沿いに歩く尾根の登りが興味深かったです。

岳友会のみなさまには大変お世話になりました。なかには懐かしい顔もあり、おしゃべりがはずんだり、初めてお目にかかる方々との交流もできたりして、楽しい一日でした。たまには、こうして所属会以外の山行に参加させていただくのもいいものだと思います。ありがとうございました。

(山友会 前田真砂子)



## 比良雪稜会

### <登山祭典山行報告> 赤坂山～三国山～黒河峠

日時：2021年10月24日（日） 天気：晴れ

参加者：会員20名 会員家族1名 一般16名 合計37名

行程：堅田駅 7:00＝小野駅＝和邇駅＝8:10 マキノ高原-8:45～赤坂山登山口 9:00～栗柄越 10:15～赤坂山 11:30-11:37～明王ノ禿(昼食)12:00-12:30～三国山 13:22-13:30～黒河峠 14:35-14:50～黒河越林道入口 15:40＝マキノピックランド 15:50-16:05＝和邇駅・小野駅・堅田駅

バスに乗っての公開山行、まだまだコロナに対する配慮は必要だが、こうして実施できることがうれしい。一般の方の中には清掃登山などにも参加して下さったりピーターの方もおられてありがたい。

朝から好天に恵まれ絶好の登山日和となった。受付後ストレッチしていざ出発。マキノ高原には色とりどりのテントがあふれ、オートキャンプを楽しむ人々でいっぱい。班毎(3班)に分かれて進む。楽しく会話しながら和やかに登り、武奈の木平で休憩。まだ紅葉には少し早いが、ちょっぴり赤くなっているところも……。これから少しずつ秋の彩りを濃くしていくのだろう。ススキの穂が風に揺れたり、どんぐりが落ちていたりして秋の装いを感じる事が出来た。

赤坂山の山頂には多くの登山者がおられた。周りの展望を楽しむ余裕もなく、班ごとに写真撮影し、明王ノ禿まで移動。琵琶湖の見える景色の良い場所で昼食をとる。トーテムポールのようなおもしろい岩もあり、ここら一帯がなぜか禿山。赤坂山まで多かった登山者もこの先に進まれる方は殆どなく、午後はゆったりと三国山に向かう。三国山は思ったほど展望が開けておらず、場所も狭いのでまた班ごとに記念撮影し、ピストンし黒河峠に向かう。

ゆっくり下って、黒河峠でトイレ休憩。林道を1時間ぐらい歩くとバスが待っていた。帰途は行楽日和で道が混んでいたが、道を熟知した運転手さんの的確な判断でスムーズに帰れた。場所等の都合で、全員での記念写真が撮れなかったことがちょっぴり残念。 〈報告：S 写真：K〉



1班 赤坂山にて



3班 三国山にて



2班 赤坂山にて



コース 甲西駅～摩崖仏～十二坊山頂～十二坊温泉～善水寺～甲西駅

日時 2021/10/24

参加 高山雅(CL)・高山智(SL)、平野、田村、目片、浜本、村田、小泉、布施  
嶋本、柴田英、柴田久、岡本和・岡本紀(山友会)、一般4人 計18人

JR甲西駅に9:20集合。柴田会長の挨拶、準備体操、コース案内をして出発。今日は風も穏やか。ハイキングにとってもいい季節。でもコロナ対策を忘れていません。

野洲川を渡り、集落を歩いて摩崖仏入口の角を曲がる。急坂を登ると左奥に摩崖仏が現れる。不動明王で4.3mもあるという。足元まで行けなかったが迫力満点。秋色の林道を30分くらい歩くと十二坊登山口に着く。

ここからざれた小さな尾根を急登り。この道はトレイルランコースで走って登るそう。アップダウンを繰り返してゆっくりふうふう言いながら40分くらいかかって十二坊山頂(岩根山)に出る。(11:15)

標高405mと低山ながらぱっと広がる展望はすばらしい。

近くの阿星山、飯道山、遠くには鈴鹿山脈が連なり北には伊吹山が。自粛期間が開け心も軽やかに気持ちいい。風景をおかずにしておにぎりもおいしい。

参加者18名でにぎやかに記念写真。

12:00下山、遊歩道を下り十二坊温泉のキャンプ場でトイレ休憩。

いよいよ善水寺への雨乞いの山越え道(医王山)に入る。細い尾根の階段で小さなアップダウンの連続、足がもつれそう。小さな山と侮ってはいけない。足元に気を付けながら下る。善水寺に14:00前に着きました。

ここで一旦解散し、善水寺拝観する人、バスに乗る人、甲西駅まで歩く人と別れました。拝観する人は国宝の本堂で住職さんの説明を聞き、ずらりと並んだ重文の仏様を拝観したり、色づき始めたモミジとお庭の池を写したりとほっこりしました。

JR甲西駅まで50分歩いた人、岩根でバスに乗った人は15:03の電車に乗り、拝観した人は岩根バス15:30、JR16:03に乗りました。久しぶりの山行を楽しめました。



高山智恵子



## 清滝山（登山祭典）

日時：2021年10月24日（日） 天候：晴

参加者：会員4名（彷徨）一般大人1名 小学生1名 計6名

行程：米原駅 7:30＝柏原駅 8時＝徳源院駐車場 8:15…清滝山  
9:15～9:45…徳源院駐車場 10:35（帰途）

概要：米原駅でY元さん、柏原駅でN西さんと合流。清滝集落の徳源院駐車場に車を置いて出発。徳源院は関ヶ原の戦いで東軍に味方した大津城主京極高次の菩提寺。京極高次の正室は浅井三姉妹の二女お初の方知られています。庭園や三重塔が史跡になっているようですがコロナ禍のため拝観中止が続いています。



（徳源院）

徳源院前のトイレに立ち寄り、外から眺めて清滝神社を通り、獣除けの鉄柵を開閉して登山道へ。尾根までは急な登りが続き、途中に台風のため倒れた電柱をくぐって登る。尾根に出ると、道は緩やかになり、頂上はテレビ塔があつて視界が開け、伊吹山が目の前に雄姿を見せる。石仏の前で記念撮影の後、お昼ごはんには早いのでコーヒータイム。南に霊仙山や御池岳見え、東に見える養老山地の向こうには御岳山もうっすらと見え眺望に大満足。



（徳源院駐車場）



（伊吹山が正面に）



（清滝山頂上）

登山道は尾根沿いに続き、稜線に戦国時代の山城（砦）があつたそうだが石垣が無いので遺構は良くわからない。山ノ神を過ぎて清滝集落に到着。休憩時間を含めて約2時間30分の山行は少し物足りないかも知れないが、徳源院を拝観して清滝山に登り、少し足を延ばして鎌倉時代末の南朝に仕えた北畠具行の墓にも立ち寄れば半日楽しめると思う。

記録 谷内（彷徨倶楽部）

※歩行距離約4km 約2時間30分（休憩含む）

## <交流山行報告 比良雪稜会>

### 第22回 比良山系飲み水水質調査・放射線測定 兼交流山行 ①コース (大橋方面)

実施日：10月31日(日) 天気：小雨後曇り時々晴れ

参加者：CL：NT SL：H K HH H N H M(滋賀山友会) 計8名

行程：和邇川河川敷P7:00=7:35坊村7:45~(明王谷林道)~牛コバ8:50~○大橋スリバチの水(10:50-11:05)~南比良峠・昼食(11:45-12:20)~荒川峠12:45~烏谷山13:20~摺鉢山13:50~大橋道出合14:30~○白滝谷登山口湧水15:20~坊村16:20=○権現山栗原登山口湧水17:00=和邇川河川敷P17:15=事務所17:20 ○印は採水箇所

7:00 和邇川河川敷Pに②コースを含む全員集合。小雨ではあるが、間もなく晴れる予報なので、実施に躊躇はなかった。

交流山行でもあり、滋賀山友会からMさんが参加してくれる。①コースは2台に分乗し出発。

坊村では葛川市民センター前の広場端に駐車(事前に了承している)する。従来駐車出来た林道入口近くは全面駐車禁止になっているため。

実は10/27に坊村へ行き、駐車場と明王谷林道の下見をしている。林道手前に「大規模崩落により通行禁止」の看板が立っていた。状況確認のため林道を歩いて行くと、護摩堂より30m位のところで崩落岩石で林道が数m埋まって山になっていた。崩落から大分日数が経っているようで一定落ち着いているようだ。踏み跡もあり、難なく通れた。実際に登山者は普通に乗り越えて通過されている。自己責任で予定通り山行実施することに決める。

で、崩落現場は注意しながら速やかに通過する。牛コバから、林道を離れ大橋方面へ向かう。摺鉢山尾根道との出合を見落とし、摺鉢山への道に入ってしまった。30m位登ったところで、おかしいと気づき、大橋への道に戻る。出合からは緩やかな下りとなるが、2ヶ所程、慎重さが要求されるトラバースがある。奥の深谷の渡渉地点で、我々の目の前で先行パーティーの1人が岩を渡れず沢にハマる。我々は無事渡り、大橋に到着する。丸木橋を渡ると「スリバチの水」。手順に沿って慎重に最初の採水を行う。南比良峠へ向かう浅い谷道は自然林がやさしく迎えてくれるいいコースだ。特に上部は裸木と黄葉と林床の緑のコントラストが美しい。

南比良峠で昼食中に、今年も②コースメンバーが到着。恒例の全員集合写真の後、我々は先に出発。烏谷山の手前では黄葉のブナ林が美しい。烏谷山頂でしばしばわ湖や山々の展望を楽しむ。

摺鉢山から西北尾根をどんどん下る。牛コバから5分程の白滝谷登山口の湧水地点で2ヶ所目の採水。

坊村へ下山後、車にて栗原へ移動。3ヶ所目 権現山登山口の湧水を採水。

ほぼ予定どおりのタイムで和邇川河川敷Pに戻り、解散。事務所にて両コース6ヶ所の採水容器をまとめ、宅急便センターへ持ち込み検査会社へ発送手続きして任務完了。

雨は歩き出してすぐに止み、深まりゆく秋をたっぷり楽しめた1日であった。

<報告：NT 写真：K>

#### <一口感想>

・・・比良雪稜会の交流山行に参加して・・・

70代の男性が積極的に参加されているのに驚きました。会の雰囲気もとてもフレンドリーで和やかに会話され、ロングコースでもへっちゃらという頼もしい会員さんばかりでした。登山口では、雨も上がり、私は、初めてのコースでしたので、落ち着いた比良を楽しみました。

来年は、放射線測定と飲み水水質調査の荒川峠コースに参加したいと思っています。(山友会・M)・・・



この活動は夏原グラントの助成を受けています・・・

## 水質検査・放射線測定山行②コース

- (日 時) 令和3年10月31日(日) 雨のち曇り  
(参加者) KH(CL)、SK(SL)、FT(測定)、YY(救急)、HM(記録) 計5名  
(行程) 和邇河川敷集合(7:00)—中谷出合(配車)—イン谷口(8:50)～  
北比良峠(10:00)～八雲ヶ原(10:30)～金糞峠(11:20)～南比良峠(12:15)  
～荒川峠(13:10)～中谷出合(15:00)—(蓬萊駅)—金毘羅神社解散(16:00)—(蓬萊駅)—和邇  
河川敷・事務所(16:30)

和邇河川敷に 7:00 に集合。空模様は小雨、心の中では中止の言葉を待ったが決行とのこと。心とうらはらに装備はしっかりとレインウェアを着ていた。

天気は回復との事それだけを頼りに出発、イン谷口で1回目の放射線測定(1分ごとに5回測り平均値を出す)、大山口分岐で2回目の測定。ダケ道途中で雨はやみ、服調整でレインウェアを脱ぐ。

北比良峠に着く頃には日が差し紅葉がきれい。

今日は放射線測定11回と水の採取は「八雲ヶ原」の流水と「荒川峠道」「金毘羅道」の湧水の3ヶ所です。八雲ヶ原で水採取と測定、前夜の雨でぬかるみが多く沢渡の橋も濡れていて注意をはらって渡る。金糞峠で若いグループに出会うが今日は朝方の雨で登山者は少ないようだ。

堂満岳をトラバース南比良峠に着く。予定より15分早かった、Yさんと健脚組とはしゃぐ、たった15分だけこれは“きちょう”。

大橋組は先に来ていて昼食中、皆で集合写真を撮る。

南比良峠から荒川峠まではきつい登りが続く、荒川峠から今年もキノコはなさそうでひたすら植林の中を下る。大岩の中から流れる水の採取と測定をして15:00中谷出合へ下山。車を回収して蓬萊駅で「夏原グラント」のHさんと合流のあと一緒に金毘羅道の湧水採取と測定を無事に終わることが出来ました。

(交流山行として実施しましたが、②コースは他会参加者なしでした)





2021年度 第22回 比良山系の飲み水調査		水質検査結果一覧										比良雪稜会			
採水日 2021年10月31日															
検査日 2021年11月2日～5日 (検査機関 (株)環境測定サービス)															
番号	採水場所 (飲み水場)	色度	濁度	臭気	味	pH	亜硝酸態窒素 (mg/L)	硝酸態窒素 (mg/L)	塩化物イオン (mg/L)	全有機炭素 (TOC) (mg/l)	マンガン	カルシウム、マグネシウム (硬度)	一般細菌 個/mL	大腸菌	判定
1	権現山の湧水	1 未満	0.1 未満	なし	なし	7.1	0.004 未満	0.7	3.0	0.3 未満	0.005 未満	25	3	不検出	適合
2	金毘羅道の湧水	1 未満	0.1 未満	なし	なし	7.5	0.004 未満	0.3	2.6	0.3 未満	0.005 未満	15	3	不検出	適合
3	白滝谷登山口の湧水	1 未満	0.1 未満	なし	なし	7.6	0.004 未満	0.2	2.9	0.3 未満	0.005 未満	23	0	不検出	適合
4	大橋の摺鉢の湧水	1 未満	0.1 未満	なし	なし	7.1	0.004 未満	0.4	2.7	0.3 未満	0.005 未満	20	0	不検出	適合
5	荒川峠道の湧水	1 未満	0.1 未満	なし	なし	7.1	0.004 未満	0.2	2.7	0.3 未満	0.005 未満	14	3	不検出	適合
6	八雲ヶ原の湧水	7	0.3	なし	/	6.9	0.004 未満	0.3	2.7	0.7	0.005 未満	3	33	不検出	不適合
水道水質基準値		5度以下	2度以下	異常なし	異常なし	5.8～8.6	0.04以下	10以下	200以下	3以下	0.05以下	300以下	100以下	不検出	-
※ 湧水5ヶ所は前年に続き、すべて適合の判定。															
※ 「八雲ヶ原の湧水」は今回は大腸菌が検出されなかったものの、色度が前年同様に基準値オーバーで 不適合の判定となりました。															

### 登山道の放射線汚染マップ作成のための測定記録票

日本勤労者山岳連盟・比良雪稜会				
測定山域名 滋賀 県 比良山系		登山口及び登山ルート イン谷～八雲ヶ原 ～荒川峠～中谷出合→金比羅神社		
測定年月日 2021年10月31日(時間帯 7:31～15:57 の間)		①晴 ②雨 ③曇 ④雪		
測定者氏名 連盟・会名 滋賀県連 比良雪稜会 FT		記録者氏名 連盟・会名 滋賀県連 比良雪稜会 HM		
測定参加者名 ( SK )( YY )( KH )( ) ( ) ( )				
測定機種 ①HORIBA PA-1000 Radi ②				
No.	標高/ 登山口から分	北緯/東経	測定結果(μSv/h)	測定した場所はどのようなところか (休憩場所・沢や水の流れの近く・落ち葉が堆積しているなど具体的に)
1	標高m 253	北緯 35° 14' 12"	地表 1m	イン谷口 二股に分かれるアスファルトの車道
	登山口から 測定時間 7:31	東経135° 55' 52"	0.078	
2	標高m 404	北緯 35° 14' 30"	地表 1m	大山口 川横、足元は土と石
	登山口から 測定時間 8:09	東経135° 55' 17"	0.167	
3	標高m 704	北緯 35° 14' 46"	地表 1m	カモンカ台 木々に囲まれたやや開けた休憩所、土
	登山口から 測定時間 9:02	東経135° 55' 12"	0.118	
4	標高m 984	北緯 35° 15' 11"	地表 1m	北比良峠 広い峠、草地、枯れた松の横
	登山口から 測定時間 10:02	東経135° 54' 49"	0.109	
5	標高m 922	北緯 35° 15' 30"	地表 1m	八雲ヶ原水場 湿原横林の中、テント場、小さな流れ
	登山口から 測定時間 10:30	東経135° 54' 36"	0.100	
6	標高m 896	北緯 35° 15' 51"	地表 1m	金糞峠 木々に囲まれ、足元は土
	登山口から 測定時間 11:20	東経135° 54' 23"	0.124	
7	標高m 935	北緯 35° 14' 14"	地表 1m	南比良峠 下草が広がるなだらかな林
	登山口から 測定時間 12:14	東経135° 54' 23"	0.075	
8	標高m 989	北緯 35° 14' 11"	地表 1m	荒川峠 林に囲まれた峠、足元は枯葉
	登山口から 測定時間 13:08	東経135° 54' 17"	0.111	
9	標高m 561	北緯 35° 14' 14"	地表 1m	荒川峠道湧水 登山道上、大きな岩の下から水が湧き出ている
	登山口から 測定時間 14:20	東経135° 54' 34"	0.119	
10	標高m 369	北緯 35° 13' 7"	地表 1m	中谷出合 登山口、アスファルトの車道、谷筋
	登山口から 測定時間 14:56	東経135° 54' 40"	0.126	
11	標高m 430	北緯 35° 11' 55"	地表 1m	金比羅道湧水 谷筋、林、アスファルト道路脇
	登山口から 測定時間 15:57	東経135° 53' 39"	0.095	



## しし岩 岩トレ報告 (CSS)

### 実施日&参加者：

2021年10月2日(土) 谷内(L) 信森 中西(彷徨) 川嶋 清水 中井(比良雪)

コースタイム：北小松駅 8:30＝登山口 8:50…しし岩取付 9:30…(昼食) しし岩終了点(懸垂下降)…しし岩取付 14時…登山口 14:30 (帰途)

初心者が2名参加。まずは8の字とマストノットを練習してセルフビレイ。

準備が整い左のスラブを登攀。立つ位置がしっかりしていて摩擦がよく効く。ホールドが細かく、ピンが少なくなっているのが緊張感がある。琵琶湖が眼下に見えて気持ちが良い。

終了点を少し下りた所で昼食後、獅子の頭を通過して取付きまで懸垂下降。京都の山岳会のメンバーも登攀していたが了解を得て、ゆっくりとロープを垂らす。ロープが所々で引っ掛り50メートル一杯を使って始点に到着。

1ピッチの登攀と懸垂下降で1日が終わったが岩登りの楽しさを少しでも感じてもらえたかなと思う。

(谷内)

コロナ禍になり 岩どころか山行も満足に出来ず、かなり不安を抱きながら参加しました。登りは2チーム 私はピレイ ここで問題、手順がスムーズに行かない!メンバーに助けて貰いながらロープを送りました。トップは谷内さんと信森さん スラブは難なく登る。上で昼食済ませてから 獅子岩から懸垂下降 二本のロープを括りカラビナに通して降りて行きました。途中のテラスでなく下まで長い距離だったのでロープがぎりぎりでした。暑い夏は過ぎたはずの岩の講習会でしたがかなり汗だくになりました、川嶋さんの同級生 中井さんと清水さんは(懸垂下降)初めてでしたがキレイに降りて行きました。いつもテント泊登山で鍛えておられます。

足腰は鍛え上げるべきだと改めて感じました。皆様と登る事ができ嬉しい思います。又機会がありましたらよろしくお願ひします。(中西)



(スラブの登攀)



(懸垂下降)

実施日&参加者：10月23日(土)・晴 谷内(L) 中西(彷徨) 村田(岳友)

コースタイム：北小松駅 8:30＝登山口 8:50…しし岩取付 9時…しし岩登攀…終了点(昼食)  
しし岩スラブ登攀…懸垂下降…取付 14時…登山口 15時 (帰途)

北小松駅で村田さんと合流。既に1パーティーがアイゼントレーニングしている。今日はししの頭を登攀。最初の出足は垂壁を登る。手がかりはあるがピンが無く細い松を手掛かりにこわごわ登る。スラブに出てししの頭手前で1ピッチ切る。この先は2年程登っていない。ししの頭まで2~3歩が結構細かく自分には厳しい。核心部を越え、終了点にようやく到達。今日も琵琶湖が美しい。

湖面に陽光が反射し眼下にトンビが飛んでいる。次に下へ降りて左のスラブを登攀。中西さんが遅れて到着。ガイドパーティと重なったが、右のルートに登攀することで了解を得る。慣れは恐ろしいもので前回よりも難なく



(しし岩スラブの登攀)

登れた。

たまに行くと怖くても続けるとやさしく感じます。

最後はスラブにロープを落として懸垂下降。終了点にリングがあるの(左手スラブを懸垂下降)でロープの回収がスムーズです。今年のクライミングはこれで終了ですが、来年の春から金毘羅としし岩のゲレンデを主に続けていきたいと思っています。



(しし岩)



(左手スラブを懸垂下降)

(谷内)

これからクライミングも始めたい方はぜひご参加ください。

## ぐうたら会長のつぶやき

会長 友永芳和

コロナの非常事態宣言が解除されて山に登る人が多くなって、道迷いや下山遅れ、転倒などの事故が増えています。人が山に入らなくなって登山道の整備が進まず道が荒れています。分岐がわかり難くなったりしているのが原因だと思いますが、それ以外にも経験の少ない人が昼過ぎから登り始めて、下山する時に暗くなってもヘッドランプを持ってなくて動けないことなど、山の基本的な事が守られていない事が多くあります。未経験者の教育なども必要だと思います。先日、雲洞谷山登ったのですが、メインのルートは「ビワイチ」とかで荒れてはいるがそれなりに整備されていましたが、下山にサブルトの岩瀬に向かう道をとったのですが、前回(20年くらい前)はしっかりしていた道も、倒木が多く急な斜面のトラバースで迂回したり、崩れて道がわかり難くなった所などありました。谷に出ても何度かあった大雨のせい、岸がえぐられている所があり、道がすっかり判らなくなっている所もありました。時の流れを感じると共に、自然の力の大きさも感じました。人間が入らないとこんなにも変貌するものかとびっくりしました。人の手が入らないと登山道も大きく変化してしまいます。以前は簡単に歩けたところも細心の注意が必要です。みなさんもこれから山に登られるさいは十分に情報を確認すると共に、慎重な行動を心掛けてください。

それにコロナウィルスが消滅したわけではありません。コロナがゼロになることはないと思います。インフルエンザと同じように上手にコロナに付き合っていきましょう。何回も書きますが、特別な事をする必要はないと思います。今まで以上に感染対策をしっかりしていきましょう。山は三密にはなりません。登山口まではマスクの着用をして、山行中は少し距離をとって、不必要な会話はせずに、コロナを恐れず山行を実施していきましょう。今後も前向きに色々な活動をやっていきましょう。皆様も頑張ってください。

以前も書いたと思いますが、今、手持ちの本を読みなおして不要な物は廃棄しています。植村直己さんの「エベレストを越えて」を読み終えました。その最後の章のなかでこう書いておられます。「一言で言うと、山というのは、人それぞれに自分の山登りが出来ればそれがいちばんだと思う。人にあの山はいいとすすめられて登っても、その山の本当の良さはみつけれないかも知れないし、その山がその人にとって良い山だったかどうかはわからない。どの世界、どの山でもそうだろうが、山というものは結局、自分で見つけていくものであろう。私にとって、良い山というのは一つの極限を意味しているといってもいい。一中略—いちばん厳しい状態の中で登頂に挑むというところに何ものにもかえがたい魅力があったからだ。そういう極限の中での発見が、私にとって新しいものなのである。」

私も若い頃は、私なりに極限を求めた時代もありました。もちろん植村さんのレベルには及びませんが。その中で、得たものは諦めない気持ちだったのかも知れません。もう進めないと思った事は何度でもあります。でもその気持ちを振り切って一歩でも前に進もうと自分に鞭打って進んだこともあります。もう出来ないと思ってからが勝負だと思います。出来ないと思ったら何もできません。どうすれば出来るのかを考える事が大切だと思います。山もそうですネ、登れないと思ったら登れないのです。どうすれば登れるのか、登るためには何が不足しているのか、それを考える事で前に進む事が出来ると思います。

幸か不幸か、人間は生まれてから死に向かって前に進む事しか許されていません。だとしたら積極的に前進する事を選択して生きていくべきだと思います。過ぎてきた後ろを振り返ることも時に必要ですが、どんなに後悔しても引き返すことは不可能です。反省はしても後悔はしない人生を歩みたいものです。

私も進む事の出来る時間はずいぶん少なくなりましたが、まだまだ頑張ってください。

12 - '22/2月 行事予定表

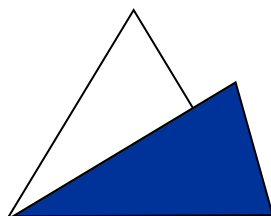
月	日	県連・全国行事	月	日	各会の行事	会名
	7	雪山基礎講座2022オリエンテーション		4	福井 飯盛山	彷徨
				5	京都トレイル(4)「二ノ瀬～清滝」	雪稜
				11	比良・比叡トレイル(忘年登山)	彷徨
				12	交流山行「山本山～賤ヶ岳」	山友
12				5	藤原岳～西尾根/前夜発	岳友
				19	忘年登山/錫杖岳	岳友
	18-19	雪山基礎講座2022(1)(CSS) 中央アルプス・神坂山		12	総会・忘年会・忘年登山	ちご
	17-20	妙高初滑りゲレンデスキー(スキーネット)				
				25-26	オールラウンド例会「荒島岳テント泊」	山友
				26	忘年山行「愛宕山」	雪稜
	29-1	妙高ゲレンデスキー(スキーネット)				
				1	初日の出山行「権現山」	雪稜
				3	武奈ヶ岳(新春登山)	彷徨
				9	新春登山/愛宕山	岳友
	8-10	乗鞍高原スキー(スキーネット スキー協行事)		9	比良(シャクナゲ尾根)	ちご
	12	理事会(ZOOM併用)		9	新春山行「武奈ヶ岳」	雪稜
	15	山スキー教室(スキーネット)スキージャム勝山				
	21-22	雪山基礎講座2022(2)(CSS) 八ヶ岳・権現岳		16	希望ヶ丘/バードウォッチング	岳友
1	21-24	妙高ゲレンデスキー(スキーネット)		22~23	冬の上高地	岳友
				23	交流山行(三雲城址)	ちご
	26	理事会(ZOOM併用)				
				29	金勝アルプス	彷徨
	5	山スキー教室(スキーネット)ダイナランド		6	干支山行「虎御前山」	山友
	10-13	雪山基礎講座2022(3)(CSS) 中央アルプス・木曾駒ヶ岳				
	12-13	小谷温泉山スキー(スキーネット スキー協行事)		13	綿向山(樹氷ハイク)	ちご
2	16	代表者会議(明日都浜大津)		13	養老山	雪稜
	18-23	北海道ゲレンデ・山スキー(スキーネット)		20	第43回定期総会	雪稜
				26	岩湧山(ダイトレ)	彷徨
				27	猪子山	ちご

会名略号 山友:滋賀山友会、岳友:湖南岳友会、雪稜:比良雪稜会、ちご:ちごゆり山歩会

シャク:シャクナゲ溯行クラブ、彷徨:彷徨倶楽部

スキーネット;山スキーネット滋賀、CSS:クライミング研究会滋賀





2022年1月号の原稿は、12月15日〆切です。

原稿の投稿先は 古川 [tfurukawa@dj8.so-net.ne.jp](mailto:tfurukawa@dj8.so-net.ne.jp)

村田 [k-hiyake@hera.eonet.ne.jp](mailto:k-hiyake@hera.eonet.ne.jp)

用紙サイズは A4、フォントは本文 11~12、タイトル 14~16、

余白は上下左右 19mmとし、

使用する写真は 200KB 以内としてください。

皆様のご協力をお願いいたします。

『県連ニュース 2021年12月 NO.533号』

発行日:2021年11月20日

滋賀県勤労者山岳連盟

TEL 080-4971-6231

〒520-0047

Email [shigarosan@gmail.com](mailto:shigarosan@gmail.com)

大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 1F

ゆうちょ銀行(店名418)

大津市市民活動センタースモールオフィス内

普通 0239956

メールボックス NO13

<http://shigarousan.jimdo.com/>

発行責任者 宮内 眞子

編集委員 古川 哲郎 村田 啓二